

# 編修趣意書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
27-128	高等学校	情報	社会と情報	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
2 東書	社情 309	新編 社会と情報		

## 1 編修の趣旨及び留意点

本書は、これからの社会を生きるために必要な情報活用能力の育成を目指し、次のような生徒像を掲げて編修しました。

### 【育成したい生徒像】

- 情報を適切に活用するために必要な基礎的・基本的な知識及び技術を確実に習得していること。
- 情報通信ネットワークを目的のために活用できる基本的な知識と技術を習得していること。
- 生きる力を支える知識を持っていること。
- 大学につながる基礎となる知識を持っていること。
- 国際競争力を備えていること。
- コンピュータや情報通信ネットワークなどで情報がどのように扱われているか、科学的な見方で捉える目を持っていること。
- 情報や情報技術の利点や留意点を意識して、日常的に賢く活用できること。
- 新しいものをつくる面白さを知っていること。
- 各界でリーダーシップを発揮できる問題解決力を備えていること。

## 2 編修の基本方針

教育基本法第2条に示された教育の目標を達成し、また、「編修の趣旨及び留意点」で掲げた生徒像を実現できるよう、下記の基本方針に基づいて編修しました。

1. 情報化の進む社会に積極的に参画することができる能力・態度を育成する。
2. 情報をコミュニケーションなどに活用する力や、情報の主体的な選択、処理、発信に欠かせない創造的思考力や合理的判断力を育成する。
3. ネット被害防止等の情報安全や情報モラル、知的財産の保護等に対する実践的態度や、情報を適切に扱ううえで必要とされる倫理的態度を育成する。
4. 情報機器、情報通信ネットワークやソフトウェアの活用により、知識や技能が生きて働き、実践に結びつくため、生徒一人一人に情報活用能力を確実に身につけさせることを重視する。
5. 社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力や態度を育むために、より広く、より深く学習することを可能にする内容を重視する。

# 3 対照表

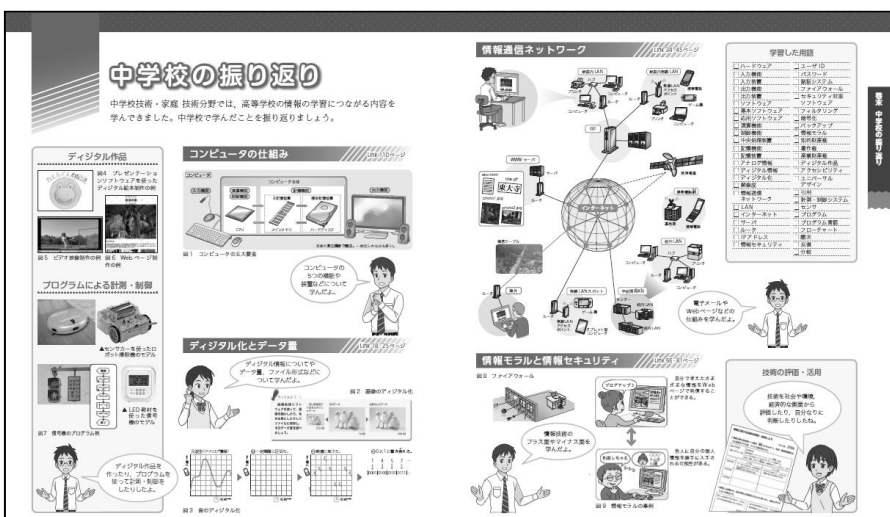
教育基本法第2条第1号-第5号の趣旨を十分に反映すべく、本書を編修しました。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<p><b>巻頭</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●イラストの中から情報モラルに反する行為を探すことにより、自分の行動を振り返り、広く道徳心を培うことに努めました（第1号）。</li> </ul>  <p>▲口絵③-1/情報モラル違反を探そう!</p>	<p>口絵③-1 ページ</p>
<p><b>1章</b> 情報を表現する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現代社会において、メディアという言葉がさまざまな意味で使われていることを学び、情報とメディアの関係について理解を深めるように努めました（第1号）。</li> <li>●デジタルデータのプラス面は、使い方次第でマイナス面になることを学び、公共の精神に基づいた節度ある態度の育成を目指しました（第3号）。</li> <li>●デジタルデータを圧縮する技術が資源の節約に寄与する仕組みを紹介し、情報技術と環境の関係について理解を深めるように努めました（第4号）。</li> </ul>	<p>6-7 ページ 16-17 ページ 25, 27 ページ</p>
<p><b>2章</b> ネットワークを探索する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個々のコンピュータがどのようにしてインターネットに接続されているかを学び、情報が世界に向けて発信されていることを理解して、国際社会について考える機会を設けました（第5号）。</li> <li>●マスメディアの特徴や情報の信憑性を確認する方法、メディアリテラシーについて学び、社会を構成する一員として情報の信頼性を判断することの大切さに気づかせるようにしました（第3号）。</li> <li>●インターネットを通じたコミュニケーションの特徴を学び、社会を構成する一員として、節度ある態度の育成を図りました（第1号）。</li> </ul>	<p>34-41 ページ 46-47 ページ 50-53 ページ</p>
<p><b>3章</b> 情報社会の課題を考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個人情報やプライバシーを守るために必要な知識を学び、他人を個人として尊重することの大切さに気づかせるようにしました（第2号）。</li> <li>●ネットワーク上の攻撃的なメッセージやネットいじめ、不適切な投稿の具体的な事例を紹介し、高校生でも加害者に成り得ることや、安易な行動が社会に及ぼす影響について考えさせるようにしました（第3号）。</li> <li>●インターネットのトラブルを「使いすぎ」「被害を受ける」「加害者になる」の3つに分けて学び、インターネットに臨む節度ある態度の育成を図りました（第1号）。</li> </ul>	<p>68-69 ページ 74-77 ページ 80-81 ページ</p>

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<p>● 4 章 情報で暮らしが変わる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報がデジタル化されたことにより、多くの情報が蓄積・活用されていることを学び、社会が大きく変化したことについて考える機会を設けました（第1号）。</li> <li>● バーチャルリアリティや3D技術により、資源を使うことなく試行を繰り返すことができることを学び、情報技術が環境の保全に寄与することが理解できるように努めました（第4号）。</li> <li>● ICTの普及が格差の解消につながる期待や、民主化運動においてソーシャルメディアが果たした役割について学び、デジタルデバイドを通して国際社会について考える機会を設けました（第5号）。</li> </ul>	<p>92-93 ページ 94-95 ページ 102-103 ページ</p>
<p>● 5 章 活動して提案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 歌川国芳の浮世絵を取り上げ、我が国固有の文化について知る機会を設けました（第5号）。</li> <li>● 自分の生活時間を見直すことにより、自主・自立の精神を養うことができるように努めました（第2号）。</li> <li>● 携帯電話やスマートフォンを使うときのマナーについてのCMを制作する活動を通して、情報社会の中で生きていくために必要な情報モラルが身につけられるようにしました（第1号）。</li> <li>● 将来就きたい職業について調べ、発表することにより、職業観を養い、勤労を重んずる態度の育成に努めました（第2号）。</li> <li>● 協働的な問題解決活動を通して、社会の形成に参画し、発展に寄与する態度を養うように配慮しました（第3号）。</li> </ul>	<p>118-119 ページ 128-129, 134-135 ページ 130-131 ページ 132-133 ページ 136-137 ページ</p>
<p>● 巻末</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報社会の礎となった技術を開発した国内外の人物を紹介するコラム「偉人の履歴書」を設け、国際社会の発展に寄与する態度の育成を目指しました（第5号）。</li> </ul>	<p>158-161 ページ</p>

## 4 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

学習の定着を目指して  
中学校での学習内容とのつながりに配慮し、より学習が深められるよう、中学校の内容を振り返るページを設けました（142-143 ページ）。また、巻末の用語集で用語を丁寧に説明しました（162-169 ページ）。



▲142-143 ページ／中学校の振り返り

# 編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
27-128	高等学校	情報	社会と情報	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
2 東書	社情 309	新編 社会と情報		

## 1 編修上特に意を用いた点や特色

### 学びやすく, 教えやすい教科書

#### 学びやすさの追求

- ①教科書を5つの章に分け, それぞれの章を10の項目で構成しました。
- ②各項目はコマ漫画, 本文, 確かめよう(生活に生かそう)と, 順に進行し, 必ず見開きで完結するようにしました。
- ③1~4章は, 主に座学での利用を意識して展開しています。5章は指導時数(1~6時間)や形態(コンピュータを使用しない, グループ活動を行うなど)に応じて使用できるように, 多様な実習課題で構成しています。

#### 基礎的・基本的な知識及び技術の習得

- ①章末に章末問題とまとめのページを設け, 生徒が学習状況を評価して到達度を確認できるようにするとともに, 学習の定着が図れるようにしました。
- ②本文は1見開きを2~4の内容に区切り, それぞれに学習後, チェックするための欄を設けました。
- ③本文の重要な用語は, 見開きごとにキーワードとしてまとめて記載しました。また, 巻末に用語集を設け, 基本的な用語を随時参照できるようにしました。

#### 生徒が自ら学ぶ意欲の育成

- ①本書は, 表紙を開けば目次, 裏表紙を開けば索引のページになっています。更に目次と索引を充実させ, つながりのある項目に「Link」マークを付して, 目的の内容がどのページにあるか, 複数の手段で検索できるようにしています。
- ②各見開きに短い時間で取り組むことのできる「やってみよう」とその答えを掲載しました。
- ③アルファベットで表記される語には振り仮名を付け, 略語については, 側注や用語集に正式名称を表しました。
- ④学習を深める内容をコラムとして掲載し, 更に目次で一覧できるようにしました。また, 幅広い知識と教養を身につけるために, 各章に章末資料のページを設けました。
- ⑤資料的な内容は, 巻末にまとめて掲載しました。
- ⑥本文ページ下方のQ&Aでは, 生徒が興味・関心を持って取り組む内容を取り上げました。
- ⑦5章では, 実習に必要な道具やソフトウェアなどを「使うもの」に記載しました。



▲6ページ/コマ漫画



▲6ページ/チェック欄



▲7ページ/キーワード



▲15ページ/Link

#### やってみよう

共有サイトの例を挙げましょう。

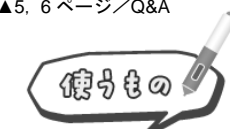
#### やってみよう ▶▶ 答え

ウィキペディア, 青空文庫, Web小説など

▲12, 13ページ/やってみよう▶▶答え



▲5, 6ページ/Q&amp;A



▲119ページ/使うもの

## 構成と内容

図書の構成	各編の内容	該当箇所
巻頭	●「情報モラル違反を探そう!」では、イラストの中から情報モラル違反を探す活動を提案しています。	口絵③-1 ページ
1章 情報を 表現する	●コンピュータとネットワークにより、メディアのありようが大きく変化したことを学習します。 ●数値をはじめ、さまざまな情報のデジタル化を学習し、デジタルデータの特徴はどのような仕組みに由来するのかを理解します。	6-15 ページ 16-25 ページ
2章 ネットワークを 探索する	●コンピュータがインターネットに接続する仕組みと、インターネットの代表的な利用例として WWW と電子メールについて学習します。 ●インターネットを介したコミュニケーションの変化と特徴について学習します。	34-45 ページ 46-53 ページ
3章 情報社会の 課題を考える	●インターネットの使いすぎが引き起こす問題について学習します。 ●犯罪の被害者になってしまうケースについて学び、トラブルを避けるために必要な情報セキュリティなどの技術について学習します。 ●情報を保護するための法律や個人の責任について学習します。	62-65 ページ 66-73 ページ 74-81 ページ
4章 情報で暮らしが 変わる	●情報技術の発達と社会の情報化による生活の変化について学習します。 ●誰もが利用しやすい情報の在り方について学習します。 ●問題解決には、情報機器や情報通信ネットワークが有効であることを学び、それらを適切に活用する方法を学習します。	90-101 ページ 102-105 ページ 106-109 ページ
5章 活動して 提案する	●情報の表現と伝達について、実習を通して理解します。 ●ネットワークの発達によって生じた新しい表現などを体験します。 ●生活時間の見直しなど、情報社会の課題について考えます。 ●情報社会における問題解決を体験します。	118-123 ページ 124-127 ページ 128-133 ページ 134-137 ページ
巻末	●中学校技術・家庭科で学んだ情報教育を振り返ります。また、ソフトウェアの基本操作、文字や色彩の基礎知識など、授業で繰り返し扱う内容をまとめて記載しました。	142-171 ページ

## 内容の特色

### 組織・配列・構成

- ①情報教育の3つの目標である「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」を習得するため、理論と実習をバランスよく配置しました。
- ②「社会と情報」の内容を5章に分け、授業の流れを考慮して配列しました。
- ③関連する箇所にリンクマークを付し、内容の関連が分かるようにしました。

### 表記・表現

- ①平易な文章で、分かりやすく、丁寧な記述を心がけるとともに、正確な図表や美しい写真、内容理解を助けるイラストを掲載するようにしました。
- ②巻末の用語集には多数の用語が取り上げられており、生徒が自ら学び、自ら考える力の育成に有効です。基本的な内容は巻末にまとめ、生徒が随時参照できるように配慮しました。

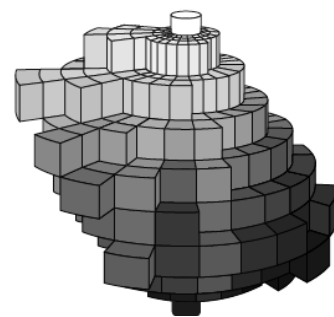


▲5 ページ/ICに使われるシリコンのインゴット

## 印刷・造本上の工夫

- ①製本はリサイクル性を重視し、針金ではなく、接着剤を使用しました。
- ②用紙は再生紙を用いるとともに、植物油インキで印刷しました。
- ③レイアウト、図版の色づかいなど、ユニバーサルデザインに配慮して編修しました。また、教科書の本文などには、ユニバーサルデザインフォントを使用しました。
- ④教科書にはアジロ綴じを採用し、平綴じよりも版面が広がったことで、見やすい紙面が実現しました。

UD FONT



▲152 ページ/色立体

## 教科書を補完する指導書の工夫

- ①学習の準備、授業展開例、評価問題、評価規準などが分かりやすく整理された教師用指導書を発行します。
- ②指導書付属の動画コンテンツ、教科書作品データ、ワークシート、デジタル板書などが、ICT 教育の充実をサポートします。

## 2 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
巻頭	(3)ア	口絵③-1 ページ	1
1 章 情報を表現する	(1)ア (1)イ (1)ウ (1)アイウ	6-9 ページ 16-25 ページ 10-15 ページ 26-32 ページ	2 5 3 3
2 章 ネットワークを探索する	(2)ア (2)イ (2)ウ (1)アイウ	48-53 ページ 34-39 ページ 40-47 ページ 54-60 ページ	3 3 4 3
3 章 情報社会の課題を考える	(3)ア (3)イ (3)ウ (1)アイウ	62-67 ページ 68-73 ページ 74-81 ページ 82-88 ページ	3 3 4 3
4 章 情報で暮らしが変わる	(4)ア (4)イ (4)ウ (1)アイウ	90-99 ページ 100-105 ページ 106-109 ページ 110-116 ページ	5 3 2 3
5 章 活動して提案する	(1)ア (2)ウ (3)ア (4)ウ (1)アイウ	118-123 ページ 124-127 ページ 128-131 ページ 132-137 ページ 138-141 ページ	3 2 2 3 3
巻末	(1)ウ	142-171 ページ	4